令和〇〇年〇〇月〇〇日

学生・保護者のみなさま

〇〇大学〇〇〇　〇〇〇〇

侵襲性髄膜炎菌感染症と髄膜炎菌ワクチンについての情報提供

　侵襲性髄膜炎菌感染症は髄膜炎菌を原因とし、発症すると24-48時間以内に命を失うこともある重大な感染症です。感染リスクとして、学校の寮などでの集団生活、国際イベントの参加や流行国への渡航などが挙げられています。侵襲性髄膜炎菌感染症の予防には髄膜炎菌ワクチンが有効です。接種にあたっては任意となりますが、入寮時、留学時などではリスクが高まりますので、下記情報等をご参考いただき接種をご検討ください。なお、ワクチンは医療機関にてすぐに接種できない場合があるので、希望する場合には事前に「髄膜炎菌ワクチンを接種したい」旨を医療機関にご連絡の上、ご相談ください。

記

1. **侵襲性髄膜炎菌感染症**

国内での発症数は年間20-40件ですが、思春期・青年期の発症も多く報告され、学生寮等における集団感染や死亡例が発生しています。初期症状は風邪に似ていることから初期段階での治療を受けにくいにも関わらず、進行が早い上に死亡率が高い疾患です。また、適正な治療を受け回復した場合にも10-20％の後遺症が報告されています。

1. **感染経路とリスク**

髄膜炎菌はヒトの鼻やのどの粘膜に存在し、くしゃみやせきなどの飛沫、飲み物や食器類の共有、キスなどによって感染します。学生寮や運動部の合宿などの集団生活や、海外から原因菌が持ち込まれる可能性のある国際イベントへの参加で感染リスクが高まります。また、留学に際しては現地での共同生活でも同様にリスクがあるのに加え、髄膜炎菌ワクチンの接種証明の提出を求められる場合もあります。

1. **髄膜炎菌ワクチン**

髄膜炎菌ワクチンは全額自己負担する任意接種です。一回接種ですが５年で効果が失われるため、感染リスクが続く場合には５年ごとの接種が必要となります。日本で承認されているワクチンは４価髄膜炎菌ワクチンで、世界55か国で承認を受けています。　世界各国での接種実績から、特に重篤な副作用は報告されておらず、局所反応（接種部位の発赤や腫脹）など他のワクチン接種と同程度です。

当大学は学生寮への入寮や部活動の合宿前、国際イベントの参加、海外留学時に髄膜炎菌ワクチン接種を受けることを強く推奨します。ワクチン接種の目的で医療機関を受診される際には、下線部以下のワクチン接種依頼票を切り取って持参することをお勧めいたします。

接種終了者はワクチン接種終了報告票に記入して保健管理センターにご提出ください。

--------------------------------------------切り取り線---------------------------------------------

ワクチン接種依頼票

侵襲性髄膜炎菌感染症(IMD)を予防するため、4 価髄膜炎菌ワクチン（破傷風トキソイド結合体）細菌ワクチン類：メンクアッドフィ®筋注(SANOFI )の接種を希望します。

令和　 年 　月 　日

氏名 自記署名

---------------------------------------------切り取り線-------------------------------------------

髄膜炎菌ワクチン接種終了報告票

ワクチン接種日 令和　 年 　月 　日

医療機関 病院・医院・クリニック

氏名 自記署名

---------------------------------------------切り取り線--------------------------------------------